

第50回衆議院選挙の必勝を誓う決議

昨年末に発覚した自民党派閥による裏金問題や、それに伴う政治資金規正法改正を巡る議論によって、国民の政治に対する不信感はかつてないほど高まっている。

自民党 石破総裁は、10月1日に招集した臨時国会において、第102代内閣総理大臣に選出され、国会議事も十分おこなわないまま、昨日、衆議院を解散した。

石破総理は、かねてから「党利党略のための解散はすべきではない」と主張してきたが、その言を翻し憲法7条にもとづく解散はあきらかたで、言行不一致と言わざるを得ず、10月15日公示、27日投開票という過密日程を強行し国民軽視のそしりは免れない。

連合は、第50回衆議院選挙を「すべての働く者・生活者の立場に立つ政治、政策を実現する重要な闘い」と位置づけている。また、衆議院議員選挙基本方針に「与党を過半数割れに追い込み、今の政治をリセットする」と目標を明確にし、「立憲民主党、国民民主党には政権を担いうるもう一つの政権の核となることに期待する」ことを確認した。

連合兵庫は、「第50回衆議院選挙基本方針」を確認した上で、2024年8月に推薦・支持する候補者全員の勝利をめざし、立憲民主党、国民民主党両県連との三者で合意書を締結し、構成組織・地域協議会と連携をはかり、一丸となって取り組むことを確認した。

私たちは、第50回衆議院選挙に向けて、今こそ全組合員が一丸となり、キャッチフレーズである「わたしプラスもう1票」を実践し、支援する候補者全員の当選をめざす。また、『働く者・生活者』の声を国政に届け、真の議会制民主主義を守り、政策・制度の実現をめざして、第50回衆議院選挙の勝利に全力を尽くすことをここに決議する。

2024年10月10日

第50回衆議院選挙 連合兵庫総決起集会